

イネカメムシの適期防除を

令和7年7月10日
芳賀農業振興事務所

- ・イネカメムシは、出穂期以降に籾を吸汁して不稔や斑点米を発生させ、大幅な収量低下や品質低下を招く被害の大きな害虫です。
- ・昨年、県南部を中心に大きな被害が発生しましたが、現在、管内でもイネカメムシが確認され、被害の発生が懸念されます。また、県南部では病虫害発生予察注意報が発表されました。(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/documents/2025chuuuihou2.pdf)
- ・発生がほ場内で確認された場合又は予測される場合は、出穂期及び乳熟期の防除を徹底しましょう。

1 イネカメムシとは

- ・成虫の体長が12～13mmの大型の斑点米カメムシ類である。(写真左)
- ・出穂期以降ほ場に侵入して、籾の基部を中心に加害し、不稔を引き起こし減収するとともに斑点米を発生させる。



2 被害の発生

従来の斑点米カメムシ類(ケムシカメムシ、ホソカメムシ、アズガスカメムシなど)の被害は、乳熟期の籾への吸汁による斑点米の発生であるが、イネカメムシの被害はこれに加えて出穂期の籾への吸汁による不稔の発生である。(写真)

出穂期の加害



不稔による減収

乳熟期の加害



斑点米による品質低下



不稔



基部斑点米

3 発生状況の把握

- ・出穂期に補虫網によりすくい取り調査を実施するか又は出穂期にはほ場内の稲 20～30 株を数か所見て回り、発生状況を確認する。
- ・栃木県農業研究センター又は芳賀農業振興事務所のホームページの発生予察情報等を確認する。

4 防除対策

- ・イネカメムシによる加害は、出穂期～開花期頃にかけて集中しやすい。
- ・出穂期に発生が見られる場合又は発生が予測される場合は、出穂期に液剤等で防除する。（下表）
- ・5月上旬植えこしヒカリの出穂予測は、平年より早まり7月第5半旬頃となっているので注意する。また、品種、作期毎に出穂時期が異なるので、適期防除に留意する。
- ・また、斑点米防止のため、出穂期の7～10日後に薬剤による2回目の防除を実施する。なお、発生が多い場合は、2回目の防除から7～10日後に追加防除する。

	出穂期 ほ場全体の4～5割 が出穂	→ 7～10日後	乳熟期	→ 7～10日後	乳熟期後半 ～稲熟期
従来の斑点米カメムシ			1回目防除		2回目防除
イネカメムシ	1回目防除		2回目防除		3回目防除 ※発生程度により

水稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和7（2025）年6月30日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	2回以内	MEP	有機リン系	1B
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	2B
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	ピレスロイド	3A
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	4C

注1 IRACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。



イネカメムシによる不稔の防止には、出穂期防除が必須です！！

イネカメムシは出穂期頃の水稻を加害し、不稔による大幅な減収を引き起こします。従来の乳熟期の防除に加えて、出穂期の防除に努めましょう！



防除対策や発生予測は栃木県
◀「カメムシ防除作戦」HPでご確認を

県農業防災LINE（公式アカウント）
カメムシ情報も随時発信中！▶

